

研修旅行



「本間美術館」と「土門拳記念館」への旅

2017年9月3日(日)

酒井名誉館長・早川館長様にご同行いただき45名で出かけました。

本間美術館は、「本間様には及びもないがせめてなりたや殿様に」と唄われた、江戸時代には豪商として明治以降は日本一の地主として知られた本間家が1947年に開いた美術館で、70周年記念特別展「江戸絵画の魅力」を、田中章夫館長様の案内で鑑賞し、尾形光琳・円山応挙・伊藤若冲・曾我蕭白等の作品の数々を堪能しました。同敷地内の国指定名勝の別邸・清遠閣と池泉回遊式庭園・鶴舞園も見学・散策することができました。

昼食は老舗料亭・香梅咲(かめざき)で、特製ランチをいただきました。午後は、新井田川河口近く、かつて庄内米の貯蔵庫だった現在の人気観光スポット・山居倉庫を訪ね、白壁の土蔵12棟が並ぶたたずまいとその風情を楽しみ、物産蔵では地酒や漬物・お菓子類の試飲・試食をしてお土産を買いました。土門拳記念館では、酒田が生んだ世界に誇る写真家・土門拳の「鬼の眼・土門拳の仕事」展で、土門拳の報道写真・寺院・仏像等の作品と、2017年の土門拳賞を受賞した梁丞佑氏の作品展「新宿迷子」を鑑賞しました。眼も心もお腹も満たされて、帰路につきました。

(研修旅行担当 辺見美江子)

美術鑑賞講座



友の会では美術鑑賞講座として、美術館の企画展の開催に合わせて、企画展をより深く鑑賞するために担当学芸員等による講義とギャラリートークなどを開催しています。

今年度は、6月に「ミュージアム:まなざしの先の女性たち展」、7月に「ジャック=アンリ・ラルティエ展」、10月に「斎藤清展」についてそれぞれ開催しました。

特に斎藤清生誕110年・没後20周年記念「斎藤清からのメッセージ展」については、生前の斎藤清氏と交流があり、過去においても斎藤清展を多く企画されるなど、斎藤清氏と深いつながりがあった早川博明美術館長さんによる友の会会員向けの特別館長講座を開催しました。当時のエピソードや作品の魅力など興味深いお話をお伺いすることができました。

(美術鑑賞講座担当 貝沼幹夫)

美術実技講座

サイアノタイプを体験
実技講座報告

講師: 國島敏
(当館学芸員)



2017年9月10日(日)

今回の実技講座は、写真の展覧会「ラルティエ展」の関係に合わせて、サイアノタイプを体験しました。

印画紙の上に素材をいろいろ組み合わせ焼き付けます。フィルムが出来上がれば、後は作品として、また、封筒、カードなど何にでも応用ができます。太陽光で、じわじわと味わいのある青色の濃淡が付いてくる過程を、ゆっくりとした気分で味わうことができました。(実技講座担当 佐藤みどり)

美術映画鑑賞会

『残像』

今年度は2016年10月に90歳でこの世を去ったポーランドの世界的巨匠アンジェイ・ワイダ監督の遺作『残像』を紹介させていただきました。ワイダ監督はファシズムの嵐

吹き荒れる真ただ中で少年期を過ごし、レジスタンス闘士として地下活動に挺身した経歴も持っています。

「最初に意識した体験は戦争でした。人の生活がいかに消え、そしてそれが何と短いものかを私は見てしまいました」。1987年第3回京都賞受賞講演でのひと言に彼の人生観が集約されています。戦後、映画監督となって『灰とダイヤモンド』(1958)『コルチャック先生』(90)『カティンの森』(2007)など70年あまりの間、根源的価値を放つ映画を撮り続けたワイダは『残像』で、ウワディスワフ・ストウシェンスキという実在の前衛画家が、ナチスに取って代わった戦後のスターリンの独裁政治に迎合しなかったがゆえに破滅させられていく過程を描きます。当局を怒らせたストウシェンスキはその作品も徹底して毀損、廃棄されました。ワイダはできる限り映画の中で彼の作品を甦らせ、いかに刺激的な芸術家であったかも伝えてくれています。

(美術映画鑑賞会担当 阿部泰宏)

アート・チャリティ・バザー



今年も盛況のうちに…

2017年12月3日(日)

「斎藤清からのメッセージ」展もよいよ終盤にさしかかった12月3日(日)、今年も美術館の前には長蛇の列。開場と同時に沢山の美術の本、図録、ポスター等がアツという間に売れてゆき、回を重ねるごとに友の会のアートチャリティバザーを楽しみにしている方が増えてきているのを実感しました。

(アートチャリティバザー担当 石川春美)

ミュージアム・コンサート

春を呼ぶジャズ&ポピュラー名曲の宴

2018年3月3日(土)

エントランスホールの高窓から春の日差しが差し込み、その光を背に受け女神のように柔らかに響きわたるボカール。

3月3日ひなまつりの日、そんな贅沢なミュージアムコンサートを開催いたしました。ジャズボカールの斎藤菜さん、キーボードの三鈿美香さん、ベースの岩屋真さん3人をお迎えし「春を呼ぶジャズ&ポピュラー名曲の宴」というテーマで「アマポーラ」や「この素晴らしき世界」「ひまわり」などスタンダード・ナンバーをすぐ耳元で、目の前でベースの響きやキーボードのカッコいい音を250人の観客で堪能させていただきました。

ミュージアムコンサートは美術館、美術館協力会、友の会が共催して美術と音楽と一緒に楽しもうという夢のような催しです。これからも様々なコンサートをミュージアムに響かせていきたいと思えます。

(ミュージアム・コンサート担当 関根裕子)

